

## 共同運営部門：〈周産期センター〉新生児医療センター

### —概要—

泉州広域母子医療センターにおける小児科の役割は、新生児医療センターにおけるNICU(neonatal intensive care unit)・GCU(growing care unit)管理運営、産科医療センターにおけるハイリスク分娩立会い、正常新生児診療、及び母児愛着関係支援である。

今年度の診療スタッフは、常勤医4名、2年目専攻医2名、非常勤医1名の計7名であった。

大阪府内泉州南部地域におけるハイリスク妊娠・分娩及び新生児診療に対応すべく、当センター産婦人科においては産婦人科診療相互援助システム(OGCS)、小児科においては新生児診療相互援助システム(NMCS)に参加し、泉州南部地域周産期医療の活動拠点となっている。OGCSからは緊急母体搬送受け入れ、NMCSからは疾病新生児や早産児搬送を受け入れている。2021年度は、NICUへの早産児受け入れ基準は、在胎26週以上かつ出生体重500g以上としているが、2019年度下半期にマンパワー減少により、一時的に受け入れ週数を引き上げざるを得ない状況も経験し、当センターNICU・GCU運営に関して、医師確保は非常に重要な課題であり続けている。

周産期医療に必須の眼科診療は、当センター眼科常勤医師が2016年3月末に退職後、和歌山県立医科大学眼科学講座に応援医師派遣を依頼、週1回のNICU往診、必要時にはROPに対してNICU病棟内での光凝固術、手術室での抗VEGF抗体眼内投与(2019年11月保険収載されたルセンチス)を施行いただいている。眼科常勤医確保もまた、当センターの重要課題の一つである。又、NICU退院児の外来フォロー診察は、外来眼科非常勤医師にて、週1回の頻度で継続していただいている。

### —実績—

NICUの入院統計を表1に示す。2009年9月に泉州広域母子医療センター開設後、入院数は100人前後を維持してきたが、昨年度入院数は100人、今年度は84人と減少しており、当院産科及び近隣産科医院の分娩数減少を背景に、コロナ禍による“産み控え”の影響が表面化している。

入院数84人中、極低出生体重児は18人(21.4%)、うち超低出生体重児は3人(3.6%)と、緩やかに減少している。これは、近年のNMCS参加施設入院実績と一致しており、泉州医療圏でも超早産児が減少する傾向が見られた。

早期からハイリスク母体を高次機関に紹介或いは緊急母

体搬送を行い、OGCS含め産科管理向上の恩恵と思われる。

緊急母体搬送後に出生、NICU入院となった児は、院内出生71人中、21人(29.6%)と、昨年度43%より減少したが、搬送後母体治療、切迫早産対応などにより、OGCSもその機能を十分に果たしている。

NMCS基幹施設による新生児搬送入院数は、今年度13例(15.5%)、昨年度27例(27.0%)、一昨年度12例(13.0%)であり、近年10~20%で推移し、母児いずれかの高次施設への搬送タイミングとして出生後新生児搬送から出生前母体搬送にシフトしている。

人工換気療法(IPPV)は18人(21.4%)、呼吸補助装置(N-CPAP又はHFNC)は29人(34.5%)に施行した。

表1. NICU入院数 (2021.4~2022.3)

出生体重(g)	院内出生	院外出生	計	IPPV	nCPAP and/or HFNC
<1000	3	0	3	1	2
<1500	15	0	15	10	3
<2500	32	4	36	4	12
≥2500	22	8	30	3	12
計	72	12	84	18	29
在胎期間(週)	院内出生	院外出生	計	IPPV	CPAP and/or HFNC
<28	1	0	1	1	0
<30	6	0	6	6	0
<32	8	0	8	5	3
<34	12	0	12	0	5
<37	22	5	27	3	10
≥37	23	7	30	3	11
計	72	12	84	18	29

### —今年度の成果と反省点・来年度への抱負—

本年度は、COVID-19陽性母体に対する分娩立ち会い、健康観察、PCR検査などの新生児対応を37例経験した。

全例経膈分娩であり、母子感染例及び新生児治療を要した児も認めず、母体隔離解除を待機した後、母児退院した。コロナ禍当初は、本邦でも感染管理上の見地から分娩様式として帝王切開が選択されていたが、NMCS・OGCS参加施設、関連学会等での知見が蓄積され、「母体状態が許容されれば経膈分娩」が選択可能となってきている。

本邦では、2016年に初めて出生数100万人を下回って以来、年々減少の一途を辿りコロナ禍も相まって2021年には過去最少の81万余と少子化の影響は周産期医療の現場でもNICU入院数減少という形で押し寄せている。

今後も、泉州南部地域唯一のNICU施設として周産期医療を堅持していく為に、小児科医師及び看護スタッフなどのマンパワーを充実させ、やりがいのある職場環境を構築することで、地域の新生児及びその家族へ質の高い医療を提供することが必須である。